



東地中海地域ニュース

シリア：ジャアファリ国連大使他の発言

(9月14-16日付 AP 他)

イスラエルによるシリア領空侵犯事件に関するシリア国連大使他の発言。

1. ジャアファリ国連大使の発言 (9月12日、14日付 AP)

- (1) (米国政府筋が、6日に行われたイスラエルの攻撃目標はイランからのレバノン武装勢力向けの武器保管場所だったと述べたことに関し)ナンセンスであり、事実無根の発言である。イスラエルは既に国連加盟国の領空を侵犯したのであるから、この発言は真実ではない。
- (2) シリアが何を保有し、何を保有していないか、イスラエルや他国が判断することではない。イスラエルは攻撃目標を見つけることができなかつたのであるから、これは完全に誤った発言である。イスラエルは、シリア空軍の攻撃にあった後、退散し、重量を軽減するために爆弾及び燃料タンクを落下させた。
- (3) 中東和平に向けたモメンタムがある中、イスラエルは挑発的行動を行い、その目的は和平プロセス及び包括的和平構想をもつ国際会議の開催を粉砕することにあると考える。この問題は、純粋に軍事的なものではなく、重要な外交的・政治的背景をもつであろう。
- (4) 本件は、国連憲章及び国連加盟国の主権の侵害である。国連事務総長及び安保理は、かかる攻撃的行為に対処することで責任を果たすべきであり、これは国連事務総長及び安保理の責務・任務である。他方、自分は国連総長及び安保理が何を言うべきか指示することはできない。

2. ビラール情報相の発言 (14日付 AP)

13日、ビラール情報相は、サウジアラビアの「シャルク・ル・アウサト」紙に対し、北朝鮮の核支援に関する非難は、イスラエルのために事実を隠蔽しようとする米国による新たな錯乱であると述べた。

3. NATO筋からの情報 (16日付「アル・ハヤート」紙)

- (1) イスラエル軍機数機は、地中海からイスケンデルン地区上空を飛び、トルコ・シリア国境地点のジャラブロスに到達し、ラッカ及びデリゾール間の地域方向にアレッポ北部から進入し、デリゾール西方50Km地点に到達してから、アレッポ北部のアンバジュに戻り、同様の経路を通過して帰還した。
- (2) イスラエル軍機は4発のミサイルを投下し、投下地点は、シリアがイランと北朝鮮の専門家の協力を得てミサイル開発及び製造を行っている建造物があるとイスラエルが見ている地点であり、ミサイルの近代化を研究する施設及びヒズボラの兵器庫も存在する。4発のミサイルのうち1発が一建造物に命中したが、被害者は出なかった。